



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第94号

2011.11.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- ー出前博物館開催について
- ー冬期閉館について

活動報告

- ーキノコ観察会
- ーサツキマス保全の試み
- ー生物多様性セミナー
～北広島の自然を考えよう～

観察会案内

- ー八幡高原の野鳥観察会
- ー千町原の保全活動
- ー紅葉と冬芽の観察会
- ー巣箱・かんじき作り

お知らせ

●出前博物館開催についてのお知らせ

一日だけの出前自然史博物館 in 広島『いきもの語り』に高原の自然館も協力します。ワークショップやパネル展示、標本展示で、広島の自然を学びましょう。入場は無料です。

第6回出前自然史博物館

一日だけの自然史博物館 in 広島『いきもの語り』
日時：11月13日（日）10時30分～16時30分
場所：広島県民文化センター地下1F 第一展示場
広島市中区大手町1-5-3
TEL：082-245-2311

料金：無料

主催：「自然の博物館」をつくる会

事務局 広島市東区光が丘11-31-302

TEL&FAX：082-264-2448

●冬期閉館についてのお知らせ

高原の自然館では、下記の期間は閉館いたします。
ご来館される際は、お気をつけください。

冬期休館日：11月26日～4月24日

観 察 会 報 告

● キノコ観察会

開催日時:2011年10月8日(土)9:30

講師:川上嘉章

秋晴れという言葉にふさわしい快晴の下,27名が聖湖キャンプ場に集合しました。今回の講師は川上先生です。まずは、駐車場でお話を聞きました。キノコを採取する時は、同定しやすくするために、出来るだけ根元から採ること、毒キノコでも素手で触って大丈夫だが、カエントケというキノコには毒性があるので触れない事、など採取に関する諸注意を話されました。その後、それぞれに分かれてキノコを探し始めました。

山の中に入ると、朝特有の冷たく澄んだ空気や、木々の間から落ちてくる木漏れ日が、参加者達を出迎えてくれました。歩き始めるとすぐに、次々と色々なキノコが見つかります。身近な場所に生えて、食用にもなるハタケシメジや、白く美しいが、とても強い毒を持つドクツルタケなどが見つかりました。途中で別の場所を探していた人達と合流し、奥へと進みました。途中でギンリョウソウが種をつけている姿も見つけました。

集合場所へと移動したあとは、お楽しみの同定作業です。採ってきたキノコがなんと言う名前なのか、食べられるのかどうかを、川上先生に教えてもらいます。まずはキノコをビニールシートの上に並べます。同定しやすいように、姿が似ているキノコは同じ場所にまとめました。また、キノコだけでなく、クリやヤマボウシの実を集めた方もいました。川上先生は並べたキノコを、じっくりと眺め、香りを確かめ、時には図鑑を引き、同定したものは、名前を紙に書いて、その上に置いていきました。名前を書く時にも、先生の工夫がキラリと光ります。黒、赤、青と、3色のペンを使い、それぞれ、食べられる物は黒、毒を含んでいる物は赤、極微量の毒もしくは、毒は無いが、食用には適さない物は青、という意味合いを持たせ、一目でどんなキノコなのか分かるように工夫されていました。同定を終えた後は、キノコを1つ1つ手に取って解説をされました。スーパー等で売られる事もあるクリフウセンタケや、2つに切るとスポンの頭のような中身がみられる

スポンタケ、傷を付けると赤い液が出てくるチシオタケなど、実際にその特徴を見せながら説明をされました。また見た目が似ているキノコの名前や、それとの区別の付け方なども話されました。参加者の方は、変わったにおいをするキノコを嗅いでみたり、名前の由来について質問するなど、熱心に先生のお話を聞いていました。普段はあまり見たり、知る事が出来ないキノコの魅力に触れられた観察会になりました。[ありみつまさかず]



快晴の中で始まった今回の観察会。最初に先生のお話を聞く。



しゃがんで見てみると、すぐにキノコを見つけることができた。



木漏れ日の中を歩く。



同定したキノコを手にとって解説される川上先生。持っているのはドクツルタケ。



カゴいっぱい採れた！



集めたキノコをシートの上に並べる。同じようなキノコはどこにあるかな？

【みなさんの印象に残った物】

「大きなベニウラホテイシメジに感動しました(2)」「冬虫夏草。始めて知りました(2)」「大きいきのこが採れた時。スッポンタケを輪切りにした時(2)」「すごくたくさん種類のきのこが身近にあること(2)」「あんがい簡単に見つけることができびっくりしました」「ワサビタケとチシオタケなどおもしろいキノコ(名前が)が見つかったこと」「初めて見るものが多い」「天気が良かった(2)」「説明してもらってよかった」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「色々小さなキノコの種数が多い事にビックリ」「天気が良かったので、探して歩くのが気持ちよかった(5)」「春先にもきのこ観察会をして欲しい」「自分の知らないきのこの世界があることに驚きました(2)」「いろいろな種類のきのこが見れておもしろかったです(4)」「先生が優しい」「きちんと整備されたキャンプ場でのキノコ観察会は素人にも親しみやすいイベントですね」

観 察 会 報 告

● サツキマス保全の試み

開催日時:2011年10月10日(祝・月)9:30

講師:内藤順一

秋風が気持ち良く吹く八幡高原で、サツキマスの保全活動を実施しました。八幡高原の柴木川には、高さ1メートルほどの堰があります。この堰が妨げとなり、登ってきたサツキマスは、堰のすぐ下で産卵しています。しかし、産卵に適した場所が限られているため、たくさんのサツキマスが登ってきても、後から来た個体が、先に産卵された卵を掘り返してしまうため、たくさんの卵が無駄になっていました。そこで研究会では、遡上してきたサツキマスを捕獲し、一部を堰の上に放流することで、産卵場所を分散させ、個体群を維持する取り組みをしています。

講師は内藤順一先生、参加者は9名です。フィールドに出る前に、八幡高原センターでサツキマスの産卵生態について講義していただきました。内藤先生が長年にわたって蓄積されたデータや、ご自身で撮影された写真・ビデオを使ってのお話しは、臨場感があり、非常に興味深いものでした。特に産卵シーンの撮影は、産卵場所が分かっていることに加え、一日中待ち続ける必要があるため、とても根気の要る調査です。そんな、写真を見ただけではわからない苦労話も、講座の中で聞かせて頂きました。

事前に学習をした後は、現地での観察と捕獲・放流の見学です。作業を始める前に、護岸から「そ〜っ」と覗いてみると、堰の下をサツキマスが行き来している様子が見えました。昨年、保全活動を実施したときよりも、個体数はすこし少ないようです。

いよいよ捕獲の開始です。内藤先生と、協力者の田村さんが川の中に入って「刺し網」を設置していきます。水は冷たいはずですが、ウェットスーツの内藤先生は、あまり気にしていない様子で、時々潜って観察しながら魚を探していました。程なく、サツキマスがかかりはじめました。丁寧に網からはずし、一匹ずつ体調と体重を量っては、移送用のコンテナに移しました。オス2個体、メス4個体の合計6個体を捕獲することができました。

サツキマスを放流するのは、少し上流です。ここは、昨年度の産卵実績がある場所であり、上流部へも移動できます。内藤先生が放流したサツキマスは、みんなの前を泳ぎ去っていきました。最後に、川についての意見や感想を言い合って、今年の保全作業を終了しました。[しらかわかつのぶ]

※サツキマスの捕獲は広島県の許可を取って行いました。



現地に行く前に、サツキマスについて学習・分類上の位置付けや繁殖生態を学んだ。上の写真は水中で撮影された、貴重なもの。



当日はテレビの取材もやってきた。網を張るところをみんなで見学中。



網を張っていく内藤先生と田村さん。



堰の上流側に移動して、捕獲した6個体を放流した。



捕獲したサツキマスは、すべて体重と体長を計測した。



最後に、質問や感想をお互いに言い合った。



捕獲したサツキマス。間近で体の模様などを見学できた。

【みなさんの印象に残った物】

「オスがメスのマネをする」「サツキマスの産卵ビデオ見て祖先を残す為一生けん命な事」「上からしか見た事がなかった産卵期の魚を間近で見る事が出来た」「サツキマスにさわれたこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「地道な調査、観察活動が重要であると思いました」「内藤先生、高原の自然館の方、地元の方の協力によってサツキマスが沢山育つと良いと思います」「また機会があれば参加したい」「人の手をかして環境を守って行く大切さを知りました」

観 察 会 報 告

● 生物多様性セミナー～北広島の自然を考えよう～

開催日時：2011年10月10日(月) 14:00

講師：白川勝信

少し肌寒く感じられる10月10日体育の日、山麓庵で西中国山地自然史研究会主催の「生物多様性セミナー～北広島の自然を考えよう～」が開催されました。このセミナーは、北広島町が制定した生物多様性の保全に関する条例に関わる取組の一環として行われました。生物多様性に対する理解を深め、自分たちや研究会でどんなことができるかを話し合い、条例にもとづく取組の方向性を決める生物多様性きたひろ戦略を関係者の意見を反映させたものとするをねらいとしています。参加者は会員、非会員を含めて14名でした。

まず、高原の自然館の白川学芸員から生物多様性とは何か、私たちの暮らしとどのように関わっているのかを、わかりやすく解説していただきました。生物多様性から私たちが恩恵を受けているものとして、食べ物や材料を与えてくれる供給サービス、水などを維持する基盤サービス、将来の有用となるかもしれない植物などを生育させている保全サービス、教育などの場となる文化サービス、防災の役目を果たす調整サービスなどを具体的に挙げ、その生物多様性が、乱獲や里山の荒廃、外来種の繁茂などで失われていることを教えていただきました。生物多様性を保全することによって町の経済的・文化的発展をめざしていることも強調されました。

後半では、生物多様性を盛り込むことでよりよい効果が望める事業や、生物多様性の保全や活用について参加者や研究会ができることなどが話し合われました。事業としては、そこでしかみられない植物をうりにしたり、生物多様性の保全に配慮することで付加価値を向上させた農業、修学旅行生や民間企業の生物多様性保全研修などが提案されました。また、個人や研究会で取り組むとよいものとして、学校での生物多様性保全の支援や、盗掘に会いやすい野生植物の栽培と販売、自然環境調査の継続と結果の発信、野生生物種の紹介、外来種の情報提供などが挙げられました。

参加者の皆さんは生物多様性という言葉は理解が難しいと言いながらも、活発な意見交換が行われたことが印象的でした。

[わだしゅうじ]



はじめに、白川学芸員から生物多様性や生態系サービス、北広島町の取り組みについての解説を聞いた。



解説の後、ワークシートを使って、各自の意見をまとめた。



西中国山地の生物多様性を保全するためには何が必要か、どんなことができるのか、を真剣に考えた。

【アンケートより】

■生物多様性の保全や活用について、あなたや西中国山地自然史研究会は、どのようなことができますか？

- ・自然が身近にあることの意義を子供達に伝える。
- ・現状の調査を続けていく。
- ・自らも、生物多様背（生態系サービス）について考え続ける。
- ・外来種の生物にどんなものがあるのか、北広島町で見られるものにはどういう生物かを知らせることも必要では？知らない、何もかも同じように保全してしまうと思う。実物を見せる、ちらしを作るなど。文章ではなく、目で見てわかるようにしては？
- ・その地方にある草花（笹ユリ等）を守り育てる。
- ・調査や研究によって性格に現状を把握し、伝えること。
- ・色々な場所を観察しているので情報提供を行うことができる。
- ・友人知人を誘って観察会、セミナー参加
- ・保全活動への参加、会の活動を多くする。

■感想・意見

- ・とてもよい復習になりました。様々な考え方があるとわかりました。
- ・これまで生態系サービスの話など、何度も聞

く機会がありましたが何度聞いても復習になり、その度に理解度が増します。地元の方にお話を聞くことができなかったので次の機会にぜひ聞けると嬉しいです。

- ・人間と他の生物が共存できる世界こそ真の豊かなくらしだと思います人間の一方的な判断で他の生物を絶滅させることは絶対さけるべきだと思います。また多くの種（DNA）を残すことが将来、人類の救いになることがあるかも知れません。地域の人達の利益につながるような生物多様性に効果のある事業がやはり大切なのでは？
- ・北広島町の取り組みがよくわかりました。
- ・“生物多様性と町民の豊かな生活”が結びついた事に興味を覚えました。広島からのバスツアーで、この地方にある食べ物（コゴミの天プラ）や森林ヨガ、神楽見学をセットにした物が有ると良い。
- ・生物多様性とのいろいろなつながりを考えながら、自分に何ができるかを考えて行きたいと思います。
- ・この様な会には地元の人がかかわって、やはり地元の人声も聞き入れながら私たちは協力出来る事があれば協力したいと思います。
- ・里山で守られている自然に関心を持っていましたが、霧ヶ谷湿原の様な例を聞き、様々な自然のかかわりを感じました。
- ・具体的に生物多様性の保全の理論的構築がむずかしい面が多いと思いました。

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 八幡高原の野鳥観察会

開催日時：2011年11月19日(土) 9:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)

八幡高原で冬を過ごす鳥を観察します。湿原・草原・田んぼ・ため池をまわり、野鳥を観察します。寒さが予想されます。暖かい服装でお越し下さい。

● 千町原草原の保全活動

開催日時：2011年11月23日(水・祝) 8:00
集合場所：高原の自然館
準備：作業セットなど(別途お知らせします)
参加費：500円

今年で7回目となる千町原秋の草刈りを行います。春の野焼きに向けての防火帯作りと低木の伐採が主な作業です。草原のすばらしい景観とともに、草原にしか生きることのできない植物や昆虫、野鳥を保護しようという目的のため、みんなで力を合わせて作業をしましょう。地元の野菜を使った美味しい昼食を準備します。詳細はスタッフまでお尋ねください。

● 紅葉と冬芽の観察会

開催日時：2011年11月26日(土) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：斎藤隆登
準備：基本セット、ルーペ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)

植物たちの冬の姿を観察します。花や葉がなくても、冬芽の特長を知れば、木の種類がわかります。斎藤先生の詳しい解説を聞きながら、八幡高原の秋から冬への移り変わりを楽しみましょう。暖かい服装でお越し下さい。

● 巣箱・かんじき作り

開催日時：2011年12月4日(土) 10:00
集合場所：八幡高原センター
準備：作業セット
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、中学生以下は無料)
材料費：かんじき1400円、巣箱400円

自分で作ったかんじきで、雪上をあるいてみませんか？自分の作った巣箱をかけて、鳥の観察をしませんか？どちらも材料はこちらで準備するので、先生から作り方を教えていただき、簡単に作ることができます。世界に一つだけのものを作ってみませんか？

稲刈りが終わる10月は、神楽の上演を知らせるのぼりを、あちらこちらで見かけます。自然館の周りでは、紅葉が見ごろを迎えています。千町原では真っ白なススキと、カエデやホオノキ、ヤマナラシなどの紅葉が、赤に黄色にと葉を染めて、私達にの目を楽しませてくれます。また、道沿いには、リンドウが、牧野富太郎氏の句碑の近くでは、四季咲きのカキツバタが咲いていました。冬期間館まで1ヶ月を切りましたが、八幡高原は、まだまだ見応えたっぷりです。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info